

速効キチン肥料 植生試験

バラ栽培（鉢植え・ハウス・庭園）

<試験方法>

1) 供試植物

バラ

2) 試験場所

公園

3) 試験株数

庭園: サークル(4~5本)が約100 ツリー4本 中心10本

鉢植え: 約50株

ハウス内: 食用バラ 46本 × 4 = 184本

4) 施用方法

月2回散布

5) 施用量

庭園・鉢植え: 500倍液を試験区(800~900m²程度)へ325L

ハウス: 500倍液を試験区(ハウス半分)へ50L

6) 施用時期

6月下旬(6/29)

7月上旬(7/12)

7月下旬(7/28)

8月上旬(8/13)

8月下旬(8/28)

9月上旬(9/15)

9月下旬(9/28)

<試験区>

庭園北東1区画

ハウス内半分(入口側)

鉢植え(50株ほど)

鉢栽培① (ブルーリュバン)

無散布区よりも、速効
キチン肥料の散布区
の方が葉が多い。(黒
点病にかかった葉は
順次取り除いているこ
とと関係があると考え
られる)

ブルーリュバン

R2.8.24



無散布



速効キチン肥料

ブルーリュバン

R2.9.28



無散布



速効キチン肥料

鉢栽培② (クイーンバガテル)

株によりバラツキがあるが、速効キチン肥料を散布した方が全体的に株の成育は良い。(葉の数、新芽の出る数)

クイーンバガテル

R2.8.24



クイーンバガテル

R2.9.28



鉢栽培③ (伊豆の踊子)

速効キチン肥料散布区と無散布区の間にあまり差は見られなかった。

<結果 考察>

- ・ブルーリュバンは速効キチン肥料を散布した方が、葉が全体的に多く残る傾向が見られた。
- ・クイーンバガテルは速効キチン肥料を散布した方が、全体的に葉が多い傾向が見られた。
- ・伊豆の踊子は無散布、速効キチン肥料散布区で大きな差は見られなかった。

⇒比較的、病気に弱い品種の方が散布による差が大きかった。

伊豆の踊子

R2.8.24



伊豆の踊子

R2.9.28







無散布



速効キッチン肥料



無散布



速効キチン肥料









無散布



速効キチン肥料

ハウス内の食用バラへの散布では、速効キチン肥料散布区よりも無散布区で下葉が少ない傾向が見られた。



無散布



速効キッチン肥料

